

誕生寺御影堂・山門



指定区分	国指定重要文化財(建造物)
読みかた	たんじょうじみえいどう・さんもん
所在地	久米南町里方
指定年月日	昭和55年12月18日
解説	誕生寺は、建久4年(1193)に法然上人の生誕地に創建されたと伝えられる寺院で、御影堂はその本堂。江戸時代中期の元禄8年(1695)に建立され、山門には正徳6年(1716)の棟札が残されている。建物は、二重の五間堂で、本瓦葺の重層入母屋造。内部の間仕切りなど、建立年代のわりには古式を保つ。正面の唐破風向拝、背面と北側面の下家[げや]は、後世に加えられている。山門は大型の三間薬医門[やくいもん]で、派手な架構を組む装飾性に富んだ建物となっている。
アクセス方法	JR誕生寺駅から徒歩約10分
公開状況	外観のみ
設備	
備考	

## きつずページ



していくぶん (指定区分)	国指定重要文化財(建造物)
ぶんかざいめい (文化財名)	誕生寺御影堂・山門
よみかた	たんじょうじみえいどう・さんもん
しょざいち (所在地)	久米南町里方
していつひ (指定した日)	昭和55年12月18日
せつめい	誕生寺(たんじょうじ)は浄土宗(じょうどしゅう)を開(ひら)いた法然上人(ほうねんしょうにん)が生(う)まれたと伝(つた)えられる場所(ばしょ)で、御影堂(みかげどう)(本堂(ほんどう))は、1695年(ねん)に建(た)てられました。